

原子炉の冷却水を処理して再利用する循環注水冷却システムで起きた水漏れ事故では過去最大の量、運転を止めて調査中であるが、処理後の水がタンクには 1 万トン以上あり注水は継続しており、12 月中の「冷温停止」には影響しないとしている。

濃度は、4 月に海に放出した低濃度の汚染水よりは「高い」中濃度に該当する。

表面の放射線量は、ストロンチウム等由来の 腺で毎時 110mSv、セシウムなど由来の腺が 1.8mSv/h と発表した。

海洋汚染を世界的に見ると、チェルノブイリ原発事故とスリ - マイル島原発事故海洋への汚染水放出はなかったが、1974 年、イギリスのセラフィールド再処理工場でも 169 兆ベクレル (Bq) のプルトニウムとアメシウムを放出してしまった事故がありました。

